

①平易な日本語で命令を作れる。(日本語処理ができる)

まえへ、みぎへ、かけ、いろは、ぬれ etc.

などの言葉を組み合わせればよい。

②命令を作るときのプログラムの構造が簡単である。

てじゅんは ○○○ ←手順名
 まえへ 1 2 3 ←動作内容
 おわり

手順名○○○を入力するだけで動作内容が実行できる。

③しかし、高度なプログラムにも対応できる。
 言葉は平易であっても、プログラム言語であるので、変数や条件分岐等ができる。

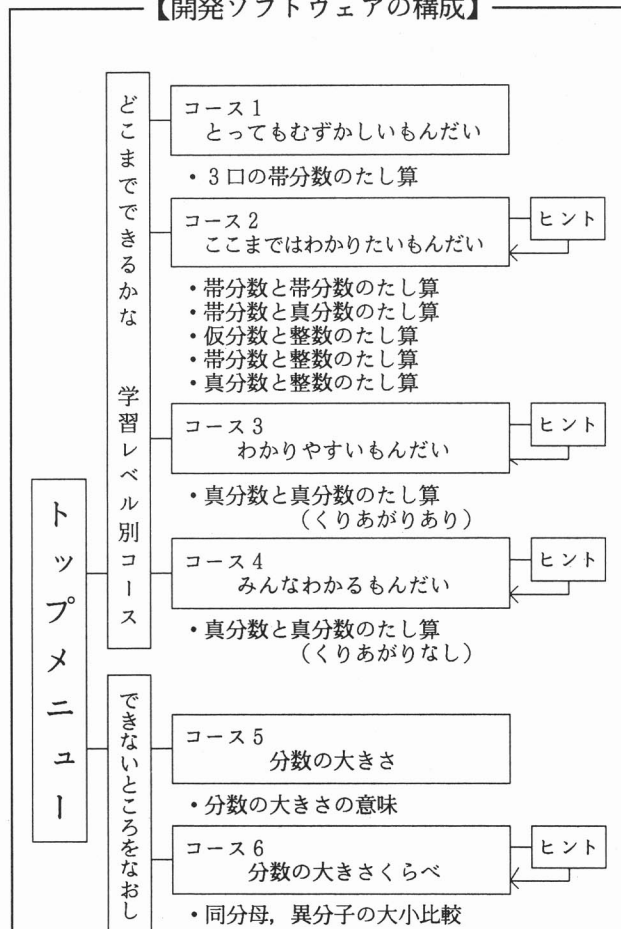
④後からプログラムの修正も容易である。
 これもプログラム言語の特徴であるが、「うらがわ」というプログラムを書き入れる場所であって、いつでも修正が可能な状態になっている。

そこで、今回の教育用ソフトウェアの開発にあたり、以上のような長所を生かして、LOGO言語で開発することにした。

(4) 開発ソフトウェアの構成

開発したソフトウェアの構成は、下に示すように、「学習レベル別コース」と「つまずき補強コース」の2つによってできている。

【開発ソフトウェアの構成】



たい
つまずき補強コース

- ・同分子、異分母の大小比較
- ・仮分数、帯分数の大小比較
- ・チャレンジ問題

コース7
帯分数から仮分数へ

ヒント

- ・帯分数から仮分数へ
- ・仮分数から帯分数へ
- ・チャレンジ問題

(5) 開発ソフトウェアの内容

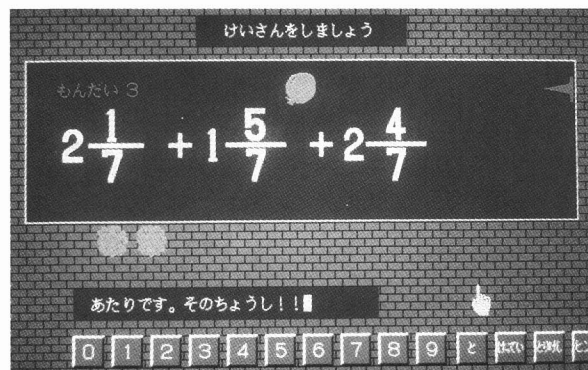
プログラムを起動すると、トップメニューが表示され、「学習レベル別コース」か「つまずき補強コース」を選択できる。メニューは、階層化されていて、マウスで操作することにより、児童は自分の希望に合わせて学習内容を選択することができる。

ここから、自分の学習レベルに合わせて、コースを選択することになる。

① 学習レベル別コースの内容

○コース1「とってむずかしいもんだい」

3口の帯分数のたし算のドリルである。



【写真1】

風船が割れるまでの間という時間制限を設け、その間に何問答えることができるかというゲーム性を取り入れたものである。ここでは、単元のねらいをほぼ達成した児童を対象にして、さらに素早い計算力を身に付けることをねらいとしている。

○コース2「ここまではわかりたいもんだい」

帯分数と帯分数のたし算の教育用ソフトウェアである。

分数の計算の形式では、最も基本的な内容であり、全員に到達してほしいコースである。

この問題は、帯分数と整数、真分数と帯分数、